

高2 沖縄修学旅行（3月5～9日）から 全員で戻ってこることができました

3月5日の第1陣は朝7時半集合、ANA第1便で出発。第2陣は朝8時集合、JAL第1便で出発予定でした。集まってみると日本旅行の添乗員の方から、今日の函館空港からのフライトは天候悪化のため、ANA・JALとも第1便だけということでした。（前日に2便以降の欠航が決まっていたそうです。）これは、神様のお守り・支えがある旅だと確信し、感謝しました。函館空港は、やや風が強かったですが、飛行機は無事離陸しました。晴天の羽田で乗り継ぎ、やはり晴天の那覇空港に到着しました。

最初の見学地は「瀬長島ウミカジテラス」でした。最近出来た観光地で、夕日がとてもきれいなので地元の人が訪れていました。修学旅行生は私たち以外はいませんでした。白い建物が多く、地中海沿岸の雰囲気がありました。初日の夜の発熱が心配でしたが、皆さん元気で朝を迎えました。

2日目は天気も良く平和学習で、クラスごとガマ見学をしました。その時のバスガイドさんは、6年前に修学旅行で沖縄を訪れた英語科の生徒さん達がガイドさんに御礼にプレゼントした「寄せ書きTシャツ」を持ってきました。長年お世

話になり、毎年良い交流が行われているのだとしみじみ感じました。その日の見学地の最初はガマと呼ばれる「轟（とどろき）壕」でした。ガマは戦時中、避難所に使用された洞穴です。ガマのなかは天井が低く、急峻で、長い距離を背中を丸めながら下っていきましたが、途中滑るところもあり、そこでは優しい生徒さん2人が老体をいたわるように私の手を引いてくれました。最深部でガマガイドさんの指示で懐中電灯の明かりを消すと「真っ暗」、目の前にかざした手も全く見えません。当時、沖縄の人達がこのようななかで息を潜めて生活していたのだと思うと本当に大変だったと実感しました。そのあと「ひめゆり記念資料館」に移動し、当時の女子高校生がどのように戦争に奉仕し、最後は自害せざるをえなかったかを学びました。昼は隣の「琉球の館」で食事を



とりました。そのお店はお土産屋さんも兼ねていましたが、久しぶりに店をあけたそうです。遺愛の生徒さん達がたくさんお土産を買ってくれるものですから本当に嬉しそうでした。次ぎに訪れたのは、「沖縄県平和祈念公園」で、平和の礎（いしじ）を見学し、沖縄戦体験講話を聞き、平和祈念資料館を見学しました。夕食時には、私の方から沖縄出身留学生（当時、沖縄は米国領）外間（与儀）久子さんが1955年から2年間、当時の遺愛生全員に支えられながら遺愛生活をおくったという話をさせていただきました。外間さんも小学校に入学した日の4月1日に米軍が上陸し、家族で捕虜となり辛い経験をしていました。沖縄の平和学習をしっかりとした2日目でした。

3日目は、曇りのち雨。「美ら海水族館」見学と「オクマプライベートリゾート」を体験しました。午後ビーチ体験を予定していましたが、風雨が強く30分

程度で終了し、リゾートホテル体験にたっぷり時間を費やし、楽しい一時でした。

4日目は快晴。「国際通り」を中心に自主研修をしました。いつもでしたら「国際通り」は、修学旅行生でごったがえすのですが、遺愛生だけでした。沖縄の旅はほとんど遺愛の貸切状態でした。ホテルもバスもお土産屋さんも感染対策に本当に気を遣っていました。

5日目は午前中「おきなわワールド」で、鍾乳洞、熱帯フルーツ園、幸運白へび体験などを楽しみ、空港に向かいました。最終日に1人発熱をした生徒がいましたが、強い沖縄の日差しにデリケートな肌が焼かれたことによる発熱で、午前中看護師さんとともにホテル待機ののち空港で皆さんと合流しました。空港保安検査場のサーモグラフィチェック時には熱が下が



那覇空港とお別れ

がり無事通過し、全員で函館に戻ることができました。（その生徒は函館に戻ったあとはすっかり元気となり、もちろんコロナではありませんでした。）

大丈夫だろうとは思っていましたが、生徒さんの意識の高さ、保護者のご理解、引率の担任団の指導、そして神様の支えと導きにより素晴らしい修学旅行になったことを心から感謝します。

2022年3月10日

高2 沖縄修学旅行（3月5～9日）の決断

3月1日に卒業した高校3年生は、遺愛として77年ぶりに修学旅行に行けませんでした。コロナ禍にもかかわらず、遺愛の高校生活には本当に満足して卒業していきましたが、やはり沖縄修学旅行に行きたかったと語っていました。また、93歳の同窓生が修学旅行と太平洋戦争が重なり、修学旅行に行けなかったことを、93歳になられても残念に思っていることを昨年お手紙で知り、今年度は何とか行ければと願っていました。

当初は10月初旬に行く予定でしたが、デルタ株の登場、東京オリンピックの開催などもあり感染者が増え、2022年3月に延期することにしました。11月から1月4日まで函館では新規感染者は0人でした。沖縄も比較的落ち着いていて、3月には間違いなく行けると思っていました。沖縄の米軍基地からオミクロン株の感染者が出て、瞬く間に沖縄全土に広がっていました。函館は大丈夫だと思っていました。1月5日に久しぶりに1人出て、13日には13人、17日45人、24日98人、26日には214人まで増えました。

1月以降、私の「早朝の祈り」のなかに、「御心ならば、沖縄修学旅行が実現しますように。」という祈りが加わりました。

しかし、なかなか収まる気配がなく、高2の保護者には、キャンセル料保険に加入することを了承していただき、最終判断を2月25日にすることにしました。その間に函館も沖縄も新規感染数のピークは過ぎ、沖縄はまん延防止重点措置地域を外れ、受け入れ可能地域になったものの減少数が鈍くなりました。函館は減ってきていましたが、北海道全体が増えていることで、まん延防止重点措置地域に3月21日まで継続指定となりました。

遺愛では、2月15日（火）の高校一般入試実施に向けて、2月はじめからクラブ活動停止、数日の臨時休業などの対応をとり、感染対策をしました。また文部科学省からは研修（修学）旅行は、安全を確保しつつ可能な限り実施してほしいという通達が出されていました。また校内の感染者数が増えていないこと、遺愛でも生徒のワクチン接種が進んできたこと（昨年と全く状況が違います）。オミクロン株は若年層への感染力は強く間違いなく増えていますが、従来型と同様、若年層について重症患者・死者はほとんどいないこと。高2在籍数の80%以上の生徒・保護者が、この状況で参加希望をしていること。高2保護者のうち44名が病院勤務していますが、そのうち37名が生徒参加に同意していること。そのうち医師が7名いらっしゃいますが、全員お子さんの参加に同意していること。そして2月24日にロシア軍がウクライナに侵攻しましたが、沖縄修学旅行の大きな目的の1つは平和学習で、沖縄は太平洋戦争中に日本で唯一、米軍が侵攻し陸上戦が戦われ、たくさんの悲劇が生まれた場所であり、こういう時だからこそ平和学習をしっかりとしたいという思いもあり、2月24日に実施を決断し、25日に発表しました。それからは、神様に無事沖縄に行き、全員で戻ってこられることをひたすら祈る日々でした。



空港での出発の様子

2022年3月3日